

下針

昔「お針」と言う言葉が有った

運針というのでも有った。不練の白い布に赤い

糸が有る。その通り「クク」して行く

その目がそろっていかぬ道に糸が通っていか

るから、ハッとして、むつかしいものだった

しかし、糸をなくして、かわった

練習用の運針でなく、はなはだ「てい」と

出来上がった時は、よろこぶか、大い

い「の」ころから、利鰯またの「む」ようになる

た「ズ」おしの横に小蛇の刺しゅうをする

単なる「黒い」ズおしでなく、おしやれを「ス」

「に」なる。の「り」布で「こ」を「く」り、それ

は、同様の小蛇を「せ」て「ス」

た「た」友人に「こ」で「お」う「の」といわれた

「た」

子「娘」の「長ズ」おし「も」よく「ひ」さ「の」部

すると「お」おの「新」を「は」り「刺し」ゅう「ま」で「か」ぶ

夏「は」なり「ス」リ「の」グ「ン」

細の「部」分「は」「ス」リ「に」あ

ー スアミと言えは 松坂やのつとりのかえ
 リ右のボク口には糸の玉を入れ 電車にゆか
 ずわうしー スアミをしたら
 一瞬 部屋の中をいーすだうやにるゝに
 花びんやちまゝと一匹ものや下にいくが
 あるいはアミのふちをふたふたにたがし
 かつた 今もやりたいたが 少々目があつた
 先日糸糸のズボレのマタアミがアミさく アミ
 だした 目がぐちゃぐちゃにさうしてさうに
 死眼鏡をわけてもむくわしい
 名残りにさぐりのうしろのグンペーは
 タレスのちみち
 もうあけ針は糸がむしれあひ